

実施期間 令和4年2月1日～2月18日

回収率 1年生(31期生)71.8% 2年生(30期生)80.6% 3年生(29期生)61.3%

## 1. 結果について

質問内容の回答しにくさを感じ昨年よりアンケート内容を変更し、今回は2回目の調査となる。

今年度の回収率は昨年より10.7%上昇し71.2%である。

設問1「本校の目指す教育理念や目標をご存じですか」「よく知っている」「大体知っている」は、どの学年も50～70%弱であり昨年より3.4%上昇したが、この設問に関しては昨年同様低値傾向にある。これは学生の年齢層に幅があり社会人経験者や既婚者が多いことが考えられる。社会人や既婚者は自立し背負っている責任があることや、現役生も高校時代までのように保護者への依存から、自身で体得して身につける自立のステージに立つ時期と保護者は考えているのではないかと考える。しかし専門学校では専門的な知識や技術の習得が大切になり、学校生活の中心は直接対象に関わる臨地実習での学びを占めているため、保護者には本校の目指す教育理念を理解して欲しいと考える。そうなるとこの設問は内容的妥当性が低いと考えられ、今後設問内容の再検討を要する項目と考える。

設問Ⅲの「学習が主体的になっているか？」については、1年生85%、2年生97%、3年生100%が「主体的である」「やや主体的である」と回答あり、昨年より9%上昇し昨年同様高い評価で経過している。

## 2. 考察

設問Ⅰの当校の教育理念や目標の周知は、昨年のデータをみても学年が上がるにつれて認知度も上昇していく特徴がある。昨年の1年生は38%と特に低かった原因を考えると、昨年度はコロナ禍により入学時に行ってきた保護者会が行えなかったことや、随時必要に応じて行っていた保護者面談もzoom対応となり、対面式面談が少なかったなどが影響していたのではないかと考えられる。今年度は入学時ではないが7月に保護者会を導入したことや、学生の生活・成績に関すること、国家試験に向けての学習状況など、必要に応じて対面式の保護者面談を実施し情報提供してきたことが、1年生52%、2年生61%、3年生69%と上昇した結果につながったのではないかと考える。また、保護者からのコメントは数名の記載ではあるが、「保護者面談を通して学校での様子がわかった」「丁寧な面談で親として心配していたことがわかりやすかった」とあり、保護者面談を導入していることは学生にも保護者にも良い結果につながっているのではないかと考える。専門学校だからこそ当校の教育理念や教育目標の理解は必用と考え、今後も学生にも保護者にも理解してもらえるような対応を心がけていきたい。

カリキュラム上、学年が上がるごとに臨地実習が増えることで、疾病の理解や看護技術など多くの知識・技術の習得とともに、対象の状況から判断能力やアセスメント能力が求められる環境にある。そのため、設問Ⅲの主体的な学習が徐々に育ってきていると回答されていることがわかる。しかし、実際臨地実習に出てみると人体の構造と機能に関する知識や、疾病に関する知識など、1・2年次に学習した看護に必要な基礎知識の理解不足が目立つ。この状況は知識の習得にまでつながっていないことがわかり、家庭内で保護者が見ているご子息・ご息女の学習姿勢と乖離しているといえる。しかし当校の教育目的にある人間性の涵養と、看護に必要な知識・技術・態度の育成をはかるために、学生個々が専門職業人として、一人一人の人間として良好な関係を築くことができ、自己の課題をもって自主的に学習し向上する姿勢を身につけさせていきたい。